

つながり通信

内線 (7807)

新人看護職員補完研修

「12 誘導心電図・モニター心電図・酸素療法・動脈血採血」「経管栄養法」「ドレーン管理」「輸血」

今年度、新人看護職員技術研修の4項目が補完研修になり、キャリア支援室が企画し、指導者となり実施しました。6月～10月にかけて、各研修項目を4日間ずつ、2時間で行いました。1項目に約70～100名と大勢の参加があり、新人のみなさんは真剣かつ活発に研修していました。

「12 誘導心電図・モニター心電図・酸素療法・動脈血採血」では、シミュレーターで12誘導心電図を取る、電極を装着した心電図の操作、酸素吸入やボンベの取り扱い、動脈採血セットの確認などを行いました。「経管栄養法」では、シミュレーターへの経鼻胃管挿入、胃ろうカテーテルの挿入・抜去、栄養ポンプの操作を行いました。「ドレーン管理」では、胸腔ドレーン、チャンネルドレーン、JVAC、SB バッグを取り扱いました。「輸血」では、安全に投与するための準備から、観察、副作用時の対応などを行いました。



補完研修の授業内容は、「考える力と主体的に学ぶ力を養う」ため、新たな試みを取り入れました。これまでの研修では、指導者がデモンストレーションを行った後に、各自がナースングスキルを読み上げ、その手順通りに技術演習を行っていました。補完研修では、技術演習の前にグループワークを取り入れました。技術の目的や適応、根拠、手順、患者への配慮、トラブル時の対応などについて、学生時代や部署での経験、事前学習した内容を活かして話し合いました。技術演習は、グループワークで学んだことをもとに行いました。演習の内容はグループで振り返り、改善点を踏まえて次の人が演習に活かしました。受講生は、リーダーや書記の役割を果たし、グループメンバーも自発的に動いていました。

研修後のアンケートでは、「自分達で考えて実践するスタイル

の研修のため、すぐに身につけそう」「じっくり考えながら演習を行うことができた」などの意見がありました。さらに、「トラブル時の対応をもっとやりたかった」という要望もありました。意見を参考に、今後の研修に取り入れていくよう、検討していきたいです。

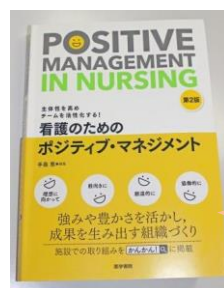


強みに目を向けて、主体性を引き出す教育

今回は、「看護のためのポジティブ・マネジメント」(著:手島恵)を紹介します。

ポジティブマネジメントとは、「優れた側面、特性、強み」にアプローチしたマネジメント手法です。豊かさに焦点をあてることで、これまで気づけなかった組織の意義や価値に気づき、その組織の一員として誇りをもって取り組めます。本の中では、組織の活性化につながった6事例が紹介されています。

また、現在の新人である1995年以降に生まれたZ世代の特徴について述べられています。この新世代は、成長過程でのネットの普及、災害やテロに直面しています。そのため、自律的、現実主義、社会貢献の意欲が高く、即時の承認・評価を求めていると言われています。Z世代の特徴に合わせた学習支援方法として、映像を用いた学習、グループワークへの個人学習の組み込みが推奨されていました。Z世代の特徴を反映した方法を取り入れ、Z世代の強みを活かして主体的な学習を促していくことが大切なのだと学びました。



キャリア支援室にあります

看護技術研修室 (210号室)

技術研修室には、9月に導入された新しい輸液ポンプやシリンジポンプを常備しています。その他にも技術練習が行えるように多数のモデルが設置されています。患者さんへの安全・安楽な看護技術の提供に役立ててください。技術研修室を活用したい方は、キャリア支援室(内線7807)までご連絡下さい。